



第1回

隨筆文

日 分 分

月 時 時

- (1) 「若田光一さん」とは、どんな人物かを説明した一文をさがし、初めの五字をぬき出しなさい。

- 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

さわやかな男として、私の頭に真っ先に浮かんだのは、若田光一さんである。スペースシャトル・エンデバーに搭乗し、ロボット・アームで衛星をみごと回収した人だ。

若田さんの何がそんなに魅力かというと、一にも二にも①表情だ。私の目にした限りでは、宇宙について語る彼は、常に笑顔であった。宇宙に関する仕事に挑戦していることそのものが、心から嬉しいように。②自分は幸運な人間です」と彼は語っている。子どもの頃、アポロの月着陸を見て以来、あこがれはあったが、米ソの人しか機会はないと思っていた、と。同じ空の仕事として、航空会社に入社、やがて新聞で宇宙飛行士の募集を知る。

九日間の旅を終え、地球に帰り着いたとき、エンデバーの機体を右手でそつといとおしむようになっていた。その姿を見て私は、

③この男は、人生を愛せる男だ)

と感じた。日本人初の搭乗運用技術者となつた名譽や、衛星回収の成功ゆえではない。「幸運な人間」と自らも言つてゐるように、それらは後からついてきた結果であつて、彼としては、夢に向かって生きているそのことが、喜びなのではないだろうか。あの表情は、内面が満ち足りた人だけに、できるもののように思うのだ。

- (2) —線①「表情」とあります、その表情をくわしく説明した部分をさがし、「—表情」と続くようにぬき出しなさい。

（ ） 表情

- (3) —線②「自分は幸運な人間です」とありますが、どのようなことが幸運なのですか。次の文の□にあてはまる言葉を文中からぬき出し、文を完成させなさい。

Ⓐ がないと思っていたが、Ⓑ になつて、Ⓒ に行けたこと

Ⓐ ()

Ⓑ ()

Ⓒ ()

- (4) —線③「この男は、人生を愛せる男だ」と、筆者が思つた理由を次から選び、記号で答えなさい。

- A 物にもやさしくできる人だから。
B 夢に向かって生きる喜びを知つてゐるから。
C 名誉や成功を手に入れたから。

()



第1回

説明文(1) 日 分 分
月 時 時

もともと日本列島のどこかにスズメが分布していたと仮定しても、ツバメと同様に、自然を放棄して人間のいる環境へと生息場所を変更するという時期があつたであろう。

注 繁殖：新しく生まれてふえること

- 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

ツバメが人家の軒下などで繁殖するということは、だれもが知っている。

明治・大正時代はもとより、江戸時代や鎌倉・平安時代にまでさかのほつても、おそらく人家で繁殖していたであろう。ツバメが建物内で繁殖するという記録は古く、①大昔からの習性のように思える。

しかし、ツバメが人家に巣を作るという習性は、ツバメ本来の習性なのだろうか。鳥類の祖先である始祖鳥が、ジュラ紀の地層から出土しているように、人類の起源よりも、鳥類の起源の方がはるかに古い。Aとすれば、人類もおらず、当然のことながら人家もなかつた時代に、ツバメは自然のどこで、どのように繁殖していたのであろうか。そして、人類が出現し、集落を形成するにつれて、なぜツバメたちは自然の繁殖場所を放棄して、人間のいる環境を選択するようになったのだろうか。

このように考えてみると、ツバメが人家の軒下などで子育てをするのは、ツバメ本来の習性ではなく、過去のどこかで、人類と出会うことによって、繁殖場所を変更したにちがいない。

大自然の中での繁殖を放棄し、人家周辺をすみかとして選択した鳥としてはツバメの他には、スズメも挙げられよう。スズメは、人の住む所に、人とともに生息している。森の奥深くや、山の中の一軒家などにはいない。ある程度の集落が発達し、人が定住しているとスズメも定住するようになる。村に人が住まなくなると、いつの間にか、スズメの姿も消えてしまう。スズメが繁殖し、定着しているかどうかは、その地に人が定住しているかどうかの目じるしにもなっている。他方、日本列島が森林でおおわれ、人が定住していないなかつた時代には、スズメも生息していなかつた可能性が大きい。もし、

- (1) —線①「大昔からの習性」とあります。これと同じ意味を表す言葉を文中から八字でぬき出しなさい。

- (2) Aにあてはまる一文を次から選び、記号で答えなさい。

- A ツバメの出現よりも、人類が先に出現していたことはない
B ツバメの出現よりも、人類が先に出現していたことはありえない
C 人類の出現よりも、ツバメが先に出現していたことはありえない
D 人類の出現よりも、ツバメが先に出現していたに違いない

- (3) ツバメやスズメの繁殖場所は、どこですか。文中から四字でぬき出しなさい。

- (4) この文章の内容と一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
- A ツバメが建物内で繁殖するのは平安時代のころである。
B スズメは森の奥深くや山の中の一軒家などにいる。
C ツバメやスズメは、日本列島が森におおわれている時代に、人家の周辺で生息していた。
D ツバメやスズメは、人家と出会うことによって、自然の繁殖場所を放棄したと思われる。



第1回

説明文(2)

日 分 分
月 時 時

視可能な範囲が広くなっているわけだ。そして、私たち人間をふくむサルの仲間も、肉食動物と同じ目のつき方だ。木から木へと正確に飛び移るには、やはりより感が必要なのだ。

三 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

(1) 動物によつて、目のついている位置はそれぞれちがう。キリンやシカやヤギなどの草食動物の顔と、トラやオオカミなどの肉食動物の顔を思いうかべてみると、よくわかる。

草食動物は目と目の間がはなれていて、極端に言うと私たちの「こめかみ」に目がついているようだ。だから、真っ正面から顔を見ると、目じりが見えない。ついでに、実に優しそうな顔に見える。一方、肉食動物は、左右の目の間隔がすつとせまく、正面から見ても、ちゃんと両目のすべてが見える。いかにもせいいかんな顔つきに見える大きな理由だ。

目の位置は A と B に関係がある。左右の「こめかみ」についているようなはなれた目は、顔を前に向けていても、右目はかなり右後ろまで、左目もかなり左後ろまで見える。つまり同時に見ることのできるはんい、視野が広いわけである。キリンなら三〇〇度以上の視野があるはずだ。

ただ、そのかわり、右目の視野と左目の視野がダブルの部分、要するに、同じ物を両目で同時に見ることのできるはんいはせまくなる。ひとつのお物を、両目で同時に見たときに、立体視が可能になりきより感ができるのであり、結果、左右の目がはなれている草食動物は、全体の視野は広いが、きより感つきの視野はせまいということになる。いつも敵を警戒していなくてはならない草食動物の暮らしには、きより感をさせいにしても、後ろまで見える広い視野が必要なのだ。

逆に③肉食動物は、視野よりもきより感の方が必要だ。きより感がなければ、えものに正確にとびかかることができないからだ。だから肉食動物の目は、草食動物にくらべて両目の間隔がせまく、全体の視野はせまくとも立体

(1) — 線①「動物によつて、目のついている位置はそれぞれちがう」とあります。これによつて、1草食動物の顔、2肉食動物の顔は、どんなふうに見えますか。それぞれ文中から六字でぬき出しなさい。

1 () () 2 () ()

(2) A () B () にあてはまる言葉を次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 左右の目の間隔 イ 視野 ウ きより感 エ 立体視

(3) 草食動物に広い視野が必要な理由を「—から」と続くように、文中から十八字でぬき出しなさい。

() から。

(4) — 線②「肉食動物は、視野よりもきより感の方が必要だ」とあります。が、その理由を「—から」と続くように、文中からぬき出しなさい。

() から。

(5) サルも肉食動物と同じ目のつき方である理由を「—ため」と続くように、文中からぬき出しなさい。

() ため



第1回

物語文(1)

日 分 分

にはもう一度と帰れない別の自分になつたような気持ちで、⁽³⁾その場でただじつと立つていた。

四 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

南国土佐も **A** を過ぎると寒い日が何日か続き、たんぽに薄い氷が張つたりする。同じ学年の梅木さんは、ひょろりと背が高くて少し美人だつたけれど、決して目立つ子ではなかつた。着ているものも粗末で、スカートにまでもいくつかつぎがあたつていた。そしていつも下を向いて黙つていた。彼女の住んでる地区はどの家も貧しかつたが、梅木さんの家はとくに貧しいようだ、学校にくるときもはだしだつた。冷たい風が梅木さんの白い足にいくつものひびわれをつくり、大きくわれたかかとや親指からは、血がじんぐりとこぼれていた。その痛々しい足を、彼女は毎朝校舎に入る前に水で洗わなければならなかつた。冷たい水が、血がふきだしている彼女のひびわれた足にどんなにきびしかつたことだろう。

ほくが登校したとき、ちょうど梅木さんは下駄箱の前にしゃがみこんで、泣いていた。普段、口もきかないおとなしい子が、あまりの痛さに、声を出して泣いていたのである。それを見たほくは、どんなことばをかけてあげればよいのか、どんなことをしてあげればよいのかわからなくて、立つたまま彼女をただ見ているだけだった。^(⑤)そこに数人の悪たれどもがかけこんできた。ほくは、**B** ことがきまり悪くなり、そのことを彼らに知られたくなくて、急に大声を出してしまつた。「梅木が、うめーうめー泣きゆう。梅木やからうめーうめーゆうて、山羊みたいに泣きゆうぜよ。」ほくがからかつたから、悪たれ坊主たちも声をそろえて「梅木やから、うめーうめー泣くがじやあ！」とはやしたてた。彼女は血のしたたる足を引きずり、声を殺して泣きながら教室の方へ逃げていった。悪たれどもはしつこくはやしてながら追いかけていったが、ほくは、梅木さんを同情の目で見ていたほく

(1) **A** にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 正月 イ 三月 ウ 六月 エ 九月

(2) —線①「泣いていた」のは、だれですか。文中から五字以内でぬき出しなさい。

() ()

(3) —線②「そ」とは、どこを指していますか。文中から五字でぬき出しなさい。

() ()

(4) **B** にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 女の子に恋をしていた イ 女の子をいじめていた
ウ 女の子に同情していた エ 女の子をかばつていた

() ()

(5) —線③「その場でただじつと立つていた」とあります、そのときの「ほく」の気持ちを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中から五字以内でぬき出し、文を完成させなさい。

悪たれどもを見たとたんに梅木さんことを□(A)ために、梅木さんを同情の目で見ていたほくには二度と帰れない□(B)になつたような気持ち

Ⓐ () Ⓛ () Ⓜ () Ⓝ () Ⓞ ()